

趣意書(賛助会員 入会のご依頼)

エンドトキシン血症救命治療研究会
代表幹事 阿部 信二

拝啓

時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より本研究会の活動に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

本研究会は 1997 年 1 月に設立し、エンドトキシン吸着療法の臨床的評価を中心とした発表が多くなされておりましたが、エンドトキシン測定法や診断方法、エンドトキシン吸着カラムの適応、開始基準、施行時間や敗血症関連バイオマーカーなど、さまざまなトピックスが絶え間なく持ち上がってきておりました。更に、敗血症に対する新たな病態生理の解明も進んで、Toll-like receptor(TLR)を介した免疫、炎症反応や receptor of advanced glycation endproducts (RAGE)など pattern recognition receptors(PRRs)という概念の導入により、pathogen-associated molecular pattern(PAMPS)や damage-associated molecular pattern (DAMPS)などの言葉も生まれてきました。そして、数ある PAMPS の中でもエンドトキシンの本体である LPS (lipopolysaccharide)は当然、代表的な PAMPS と言えると思います。このことから、ポリミキシン B 固定化ファイバーで LPS を吸着する意義は有ろうかと思いますが、まだまだ明らかにされていないことも沢山あります。本研究会ではこれらの研究発表、会員の交流、関連学会との協力等を行いながら、研究の発展と患者の救命につなげることを目的として活動しております。

そのため、「学術大会の開催(年 1 回)」、「エンドトキシン血症救命治療研究会誌の発行(年 1 回)」、「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 患者診療状況および PMX 保険算定要件変更に関する調査」などの活動を行っており、会員数は約 200 名となっております。

本研究会はこれまで、会員各位の会費収入と共催の東レ株式会社及び東レ・メディカル株式会社よりの会費で運営されてきました。このたび、研究会の独立性をより担保した形態に転換し、さらに研究会活動を活性化させ、目的を実現するために、広く本研究会の趣旨にご賛同いただいた企業様にも賛助会員として研究会活動にご支援いただきたく考えております。

新たな賛助会員の皆様のご支援により、学術的發展を遂げ、社会に貢献する研究会を目指して努力する所存であります。つきましては誠に恐縮とは存じますが、皆様にも本趣旨にご賛同いただき、ご入会いただけますようお願い申し上げます。

敬白

エンドトキシン血症救命治療研究会 賛助会員入会
 申込先 FAX :03-3234-4127
 申込先 Eメール :end-jimu@shizenkagakusha.co.jp

申込年月日	年 月 日	事務局記入欄 (研究会時)	第 回
御社名			
部署名			
所在地 ・ TEL/FAX	〒		
	TEL		
	FAX		
ご担当者名			
E-mail			
口数	100,000 円 × _____ 口 = _____ 円		年会費として

<事務局> 〒102-0072
 東京都千代田区飯田橋 3-11-13
 株式会社自然科学社 編集部内
 エンドトキシン血症救命治療研究会
 TEL:03-3234-4121 FAX:03-3234-4127
 E-mail:end-jimu@shizenkagakusha.co.jp